

「心と体を守る教育」に関する保護者意識調査レポート (2025 年)

— 全国 1,906 名の高校生保護者が語る“期待”と“不安”—

SRHR *for* JAPAN

本レポートに関する問い合わせ：SRHR for JAPAN キャンペーン事務局(公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン内) srhrforjapan@plan-international.jp

趣旨・背景

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンと一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会は、全国の高等学校に在籍する生徒の保護者を対象に、「心と体を守る教育(日本型ウェルビーイング教育)」に関する意識調査を共同で実施しました。

現代社会において、自己肯定感の低下、性被害、SNS 等による情報リスク、いじめなど、子どもたちの心身の安全と成長に深刻な影響を及ぼす問題が多発しています。

こうした課題に対し、単に「性」についての知識を教えるだけではなく、「人間関係」「感情の扱い方」「自己尊重」「性的同意」などを包括的に学ぶ“心と体を守る教育”の必要性が高まっています。

本調査は、そうした教育に対して保護者がどのような不安や期待を持っているのかを把握し、教育現場での導入や制度化を後押しする基礎資料とすることを目的として実施されました。

調査概要

調査名称	高校生の保護者を対象とした「心と体を守る教育」に関する意識調査
実施期間	2025 年 9 月 1 日～ 10 月 24 日
実施方法	オンラインアンケート(Google フォーム形式)
対象者	全国の高等学校に在籍する生徒の保護者
有効回答数	1,906 名
設問構成	属性情報、性教育への理解・関心、不安、期待、学校教育への要望など、全 14 問
主催	公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン
協力	一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会
匿名性の確保	全ての回答は統計的に処理され、個人が特定されることは一切ありません。

回答結果

<回答者の属性>

- 回答者の性別は女性が多数を占め、全体の約 86% (1,638 名) を占めた。男性は 225 名 (約 12%)、その他／答えたくないは 43 名 (約 2%) であった。
- 40 代 (1,075 名) および 50 代 (769 名) が大半を占め、30 代以下の回答は比較的少数であった。60 代以上はごくわずかであった。
- 「女の子のみ」「男の子のみ」のいずれかに該当する回答者がそれぞれ約 4 割であり、両方の子どもを持つ保護者も 15% (284 名) 存在した。
その他／未定義や「答えたくない」の選択も一部に見られた。

回答者の性別
(n=1,906)

性別	人数	%
女性	1,638 名	85.9%
男性	225 名	11.8%
その他／答えたくない	43 名	2.3%
合計	1,906 名	100.0%

回答者のお子様の性別
(複数回答、n=1,906)

お子様の性別	人数	%
女の子	821 名	43.1%
男の子	763 名	40.0%
女の子、男の子	284 名	14.9%
答えたくない	32 名	1.7%
その他・未定義	6 名	0.3%
合計	1,906 名	100.0%

注：回答者で「女の子、答えたくない」の複数選択者 (1 名) は「女の子」に計上した。

回答者の年代
(n=1,906)

年代	女性	男性	その他/答えたくない	合計	%
20 代	1 名	1 名	0 名	2 名	0.1%
30 代	48 名	2 名	3 名	53 名	2.8%
40 代	943 名	110 名	22 名	1,075 名	56.4%
50 代	644 名	107 名	18 名	769 名	40.3%
60 代以上	2 名	5 名	0 名	7 名	0.4%
合計	1,638 名	225 名	43 名	1,906 名	100.0%

<理解・関心>

■設問：「性教育」という言葉から、あなたはどのような内容を教えるものだと感じますか？（複数選択可、n=1,906）

選択肢	回答数	%
性交や避妊の知識	1,703 名	89.3%
思春期の身体の変化	1,441 名	75.6%
感染症（性感染症等）予防	1,277 名	67.0%
自分の身体の大切さ・心の成長	1,238 名	65.0%
性的同意・境界の尊重	1,016 名	53.3%
性的多様性	707 名	37.1%
家庭では話しづらいことを補う内容	658 名	34.5%
人間関係・コミュニケーション	439 名	23.0%
よくわからない	24 名	1.3%
その他（自由記述）	4 名	40.2%

※複数回答形式のため、選択肢の合計は回答者数を上回ります。

※本設問には 1,906 名が回答し、延べ 8,507 件の選択肢が選ばれました。

- 「性交や避妊の知識」「思春期の身体の変化」「感染症予防」など、身体的・生理的な内容への理解が多く見られた。
- 「性的同意」「性的多様性」などの社会的・倫理的側面に関する理解や関心も一定数確認された。
- 「家庭では話しづらいことを補う内容」を選んだ回答もあり、家庭だけでは扱いにくいテーマを学校教育に委ねたいという保護者のニーズがうかがえる。
- 一方で、「よくわからない」と回答した人も 24 名おり、性教育という言葉の定義や範囲に対して戸惑いや認識の揺らぎが一部で存在することも示唆された。
- 自由記述では「性被害、浮気や不倫がなぜダメなのか（40 代女性）」「性に関する法律（50 代その他／答えたくない）など、選択肢にはない独自の視点や関心領域が記載されており、保護者によって性教育に求める内容は多様であることが読み取れる。

■ 設問：学校で行われる性教育について、あなたはどのような印象をお持ちですか？（項目別集計、n=1,906）

選択肢	回答数	%
もっと充実させてほしいと思う	682 名	35.8%
ある程度は必要だと思うが内容には慎重であってほしい	762 名	40.0%
どのようなことを教えているか知らない	438 名	23.0%
最小限でよい(家庭で教えるべき)	14 名	0.7%
特に関心がない	3 名	0.2%
無回答	7 名	0.4%

- 「ある程度は必要だと思うが、内容には慎重であってほしい」という慎重支持層と、「もっと充実させてほしいと思う」という積極的支持層がともに多く、性教育への必要性を肯定的にとらえている回答が大半を占めた。
- 「どのようなことを教えているか知らない」という回答も一定数あり、保護者が学校での性教育の実態を把握しきれていない状況がうかがえる。
- 「最小限でよい」「特に関心がない」という否定的・無関心層はごく少数にとどまった。

<不安>

■ 設問：学校で性や心の発達について学ぶことに、どのような不安がありますか？（複数選択可、n=1,906）

選択肢	回答数	%
SNS やネットの情報と混乱しないか不安	758 名	39.8%
教員が適切に教えられるのか心配	678 名	35.6%
子どもにふさわしい時期・年齢で教えられているか不安	587 名	30.8%
特に不安はない	555 名	29.1%
内容が過激すぎないか不安	259 名	13.6%
子どもが戸惑ったり、反発しないか不安	228 名	12.0%
家庭の価値観と合わないことを教えられるのではないか	117 名	6.1%
その他(自由記述)	24 名	1.3%

※複数回答形式のため、選択肢の合計は回答者数を上回る。

※本設問には 1,906 名が回答し、延べ 3,206 件の選択肢が選ばれた。

自由記述(「その他」)の主な内容(全 24 件)自由記述には、下記のような多様な不安・懸念・要望が含まれていた。

分類	コメント例
教育内容・実施体制への不安	<ul style="list-style-type: none">・ 表面的なことしか教えてくれていないので、子供が向き合う現実から乖離している(40 代女性)・ 子供も親も学ぶために正しい知識と姿勢が高校入学前から必要(40 代女性)・ 教育内容がわからないため、家庭でのフォローが出来ないことが不安(40 代女性)・ 先生達もどのように教えるのか精神的負担になるのではないかと思う(40 代女性)・ 養護教諭など(同性の先生がありがたいです)(40 代女性)・ きちんとした教育ができるスタッフが必要かと思います(50 代男性)・ 教員が適切に教えられるのか心配。わたしは私立の女子校だったが高校時代、実物のコンドームで木の棒につけたが、公立の学校でサラッとやっておらず教員に研修をまず行って欲しい。(50 代女性)
子どもの受け止め方や学習効果	<ul style="list-style-type: none">・ 学校での集団の学びは学びの内容が入りにくい環境下にあるので、子どもの中に印象つかないのではないか(40 代女性)・ 友達がいるから真剣に聞くことが難しいかもしれない。最近の子どもたちは恥ずかしいとか思うのかも不明(40 代女性)
性教育そのものの 在り方や実施場所	<ul style="list-style-type: none">・ 政治の圧力や旧来の道德観の影響により、必要な性教育が実施できなくなるか不安(40 代女性)・ 個々にあった教育が難しいのでは？(40 代男性)・ 性教育を学校内で行うことは反対。学校ではない他の場所や場面で伝えるべき。またその活動をしている人の自己満足に終わらないために、内容は事前に把握した上で受けさせたい(50 代女性)

- 最も多かったのは「SNS やネットとの混乱」であり、現代的な情報環境の中で誤解や情報過多への懸念が強いことがうかがえる。
- 「教員が適切に教えられるか」「時期・年齢の妥当性」など、実施体制や内容設計に関する不安が上位を占めている。
- 「特に不安はない」と回答した保護者も 554 名おり、一定数の保護者は学校での教育に肯定的な姿勢を示している。
- 自由記述では、制度への信頼と家庭の教育観とのすれ違いや、一人ひとりの子どもに合った対応の難しさなどが表出していた。

※本報告書における分類カテゴリは、任意回答の内容を SRHR for JAPAN 事務局にて確認のうえ、主観的判断を避けつつ、内容の傾向に基づいて分類したものである。

<期待・希望>

■設問：「性や心・人間関係について、学校でどのような内容を教えてほしいと思いますか？」(複数選択可、n=1,906)

選択肢	回答数	%
妊娠・避妊・性感染症の予防(ピル・コンドーム・緊急避妊等を含む)	1,609 名	84.4%
SNS・ネット上の性トラブル(リベンジポルノ・出会い系等)への対応	1,431 名	75.1%
性的同意と「ノー」と言う力	1,396 名	73.2%
月経や精通などの体の変化への理解	1,148 名	60.2%
思春期の身体の変化と仕組み	1,102 名	57.8%
心の発達と感情の扱い方(不安・怒り・孤独など)	935 名	49.1%
いじめ・性暴力・家庭内暴力の予防と対処	934 名	49.0%
ジェンダー(性別)に関する理解と偏見の解消	819 名	43.0%
健康な人間関係の築き方(信頼・尊重・対話)	797 名	41.8%
自己肯定感と他者への共感	747 名	39.2%
性的指向や性自認(LGBTQ 等)への理解と尊重	696 名	36.5%
社会にある性に関する情報やメディアリテラシー	601 名	31.5%
特に教えてほしい内容はない	8 名	0.4%
その他(自由記述)	17 名	0.9%

※本設問は複数回答形式のため、選択肢の合計は回答者数を上回る。

※この設問には 1,906 名が回答し、延べ 12,240 件の選択肢が選ばれた。

- 自由記述の中では、学校教育の内容にとどまらず、緊急時の対応や支援制度への具体的なニーズが複数示された。これは、知識習得に加えて「実践的対応力の涵養」を求める保護者の期待と捉えられる。
- 性教育において専門家(助産師・医師など)を活用する声や、具体的な道具・説明手法に言及する意見も見られ、現場の実施方法への関心の高さがうかがえる。
- 「異性の身体的経験への理解」や「性教育の男女共修」に関する記述は、従来の性別分離教育に対する課題意識を反映していると考えられる。
- また、「保護者も学ぶべき」「妊活や家族計画も含めて教えてほしい」といった意見は、性教育を人生全体の中で位置づける長期的視点を示している。
- 一方で、「好きにして」「よくわからない」といった記述もあり、性教育の内容や枠組みに対する関心や理解に温度差があることも示唆されている。

自由記述の主な内容

分類カテゴリ	主な記述例
実践的な知識・対処法の希望	<ul style="list-style-type: none">・ 危ない性交渉の身体への影響、性交渉における注意点(40 代女性)・ 実際レイプされたとき、どこに連絡すれば良いか。望まない妊娠をした時、出産をした時に助けてくれるサイトや団体など。(50 代女性)・ 妊活や将来の家族計画についても教えてほしい(40 代女性)
情報提供の手段・専門家の活用	<ul style="list-style-type: none">・ 産婦人科医・助産師等、男子高校生が減多にかかわれない専門家からの情報(40 代女性)・ 学校や習い事などの先生による性加害とそれに対する防衛策、大人との適切な距離のとり方(40 代女性)・ 実物や模型を使った具体的な知識(40 代女性)
心理的・関係性の理解と支援	<ul style="list-style-type: none">・ 性衝動と支配欲や攻撃性等隣接する別の心理との関係・向き合い方、攻撃性の解説、ノーと言われた時に逆上する心理のやり過ごし方。妊娠のもつ意味の重さ(50 代女性)・ 目を見て話し合う。自分の気持ちや考えを伝え合う訓練の場であって欲しい。(40 代女性)・ 自己と他者を大切に思う気持ち 思いやり(50 代男性)
支援体制・相談先の整備	<ul style="list-style-type: none">・ 悩みが相談できる担任以外の職員を配置してもらい肯定的に受け止めてもらえる環境を整えて欲しい(50 代女性)・ 実際レイプされたとき、どこに連絡すれば良いか。望まない妊娠をした時、出産をした時に助けてくれるサイトや団体など(50 代女性)
男女の理解と性教育の在り方	<ul style="list-style-type: none">・ 実物や模型を使った具体的な知識。異性特有の経験への理解(男性に対して生理痛やその対応方法、ナプキンの種類など)(40 代女性)・ 生理の話の時に男の子を外に出すのがおかしい(30 代女性)・ 産婦人科医・助産師等、男子高校生が減多にかかわれない専門家からの情報(40 代女性)
家族・保護者への教育も必要	<ul style="list-style-type: none">・ 保護者にも学びが必要だと思う(40 代女性)
思想的・個人的な意見	<ul style="list-style-type: none">・ 好きにして(50 代その他／答えたくない)・ よくわからない(40 代女性)
ネットへの懸念	<ul style="list-style-type: none">・ SNS やネットに振り回されない事 自ら見ないようにする強い気持ち 学業の妨げになるということ(40 代女性)

※本報告書における分類カテゴリは、任意回答の内容を SRHR for JAPAN 事務局にて確認のうえ、主観的判断を避けつつ、内容の傾向に基づいて分類したものである。

■設問：あなたは、学校の性教育にどのような役割を期待しますか？（単一選択、n=1,906）

選択肢	回答数	%
自分を大切にし、他者を尊重する姿勢を育てる教育をしてほしい	944 名	49.5%
性的な知識だけでなく、心の発達や人間関係についても教えてほしい	509 名	26.7%
基本的な知識（身体の変化・感染症など）の提供があれば十分	256 名	13.4%
性教育の内容や目的についてもっと知ってから判断したい	129 名	6.8%
特に考えたことがない／わからない	62 名	3.3%
家庭の価値観を重視して、学校での性教育は最小限にしてほしい	6 名	0.3%

※この設問は単一選択形式であり、1,906 名が回答しました。

- 最も多かったのは「自分を大切にし、他者を尊重する姿勢を育てる教育」で、全体の約半数（49.5%）。これは性教育に対して単なる知識伝達以上に、人間性や倫理観の育成を重視する声強いことを示している。
- 次いで「心の発達や人間関係についても教えてほしい」が 509 名（26.7%）で続き、保護者の多くが、性教育を人との関係性や感情面を扱う包括的な学びとして捉えていることが伺える。
- 一方、「基本的な知識の提供で十分」と考える保護者も 256 名（13.4%）と一定数存在し、教育内容の深度や範囲については多様な意見が共存している。
- 「内容や目的をもっと知ってから判断したい」（129 名）、「考えたことがない／わからない」（62 名）といった回答からは、情報不足や関心の差も読み取れる。
- 「学校での性教育は最小限にしてほしい」という慎重な意見は 6 名とごく少数にとどまった。

■設問：学校が性や心の教育を進めるにあたって、保護者にどのような情報や関わり方があると安心できますか？（複数選択可、n=1,906）

選択肢	回答数	%
専門家(助産師・心理士など)が授業に関わっている	1,268 名	66.5%
授業内容について事前に説明を受けられる	511 名	26.8%
使用する教材やスライドを事前に確認できる	407 名	21.4%
特に気にしていない／どんな形でも構わない	336 名	17.6%
保護者向けの説明会や研修がある	240 名	12.6%
学校と保護者が対話する機会が設けられている	129 名	6.8%
保護者の意見を授業づくりに反映する仕組みがある	95 名	5.0%
その他(自由記述)	24 名	1.3%

※本設問は複数回答形式のため、選択肢の合計は回答者数を上回る。
※この設問には 1,906 名が回答し、延べ 3,010 件の選択肢が選ばれた。

- 保護者が性や心の教育に対して安心感を持つためには、授業の質や透明性、情報の共有に関する関心が高いことが回答から見て取れる。
- 「専門家(助産師・心理士など)が授業に関わっている」との選択肢が最多となっており、外部の専門的な知識や経験に対する信頼がうかがえます。次いで、「授業内容について事前に説明を受けられる」や「使用する教材やスライドを事前に確認できる」といった、学校からの丁寧な情報提供を求める声も多く見られた。
- 自由記述では、授業後に子どもが学んだ内容を家庭でも共有できるよう、メールや紙面での連絡、家庭向け資料の提供を求める声が寄せられており、中でも情報共有を求める意見は最も多く、11 名から寄せられた。また、授業の様子を見られる機会や、動画・スライド資料の配布 など、視覚的・柔軟な方法での情報共有も求められている。
- 保護者が授業に立ち会いたい、参加したいという意見もあった。一方で、学校の対応に任せたい、特に気にしていないとする回答も一定数あり、保護者の関心や関与のスタイルには幅があることがうかがえる。

自由記述の主な内容

分類カテゴリ	主な記述例
授業後の情報共有・家庭との連携	・ 親にも子供への関わり方や伝え方を教えて貰えると、同じ内容を共有できるかなと思う(50 代女性) ・ 今、保護者として知るべき事実を学校から提供して頂けると大変有難い(40 代女性)
説明資料・動画などの提供	・ 学校で行った内容、生徒の反応などを事後でいいので教えて欲しい(50 代女性) ・ 事前に出なくても良いので授業内容は知りたいです(40 代女性)
保護者による授業見学・参加	・ 保護者も自由参加できる半クローズドな授業があっても良い(親がいると嫌だという子もいると思うので、何回かの授業の一回でも)(50 代女性) ・ オンラインで模擬授業でも良いので視聴してみたい。文科省 YouTube チャンネルなど(50 代女性)
学校へ任せる	・ 学校にお任せします(40 代女性)
教員への配慮	・ 教員の負担がかからない方がよい(40 代女性)
その他(抽象的または判断困難)	・ しらんけど(50 代その他／答えたくない)

※本報告書における分類カテゴリは、任意回答の内容を SRHR for JAPAN 事務局にて確認のうえ、主観的判断を避けつつ、内容の傾向に基づいて分類したものである。

■設問：性や心、関係性についての教育は、どの学年段階でどのように教えられるのがよいと思いますか？（複数選択可、n=1,906）

選択肢	回答数	%
「性」の知識だけでなく、心や人間関係のことも段階的に学んでほしい	1,042 名	54.7%
年齢や発達段階に応じて内容を区切り、体系的に教えてほしい	796 名	41.8%
小学校低学年から、年齢に応じて少しずつ教えてほしい	769 名	40.3%
小学校高学年から始めればよいと思う	414 名	21.7%
中学生になってからでよいと思う	171 名	9.0%
一律に教えるのではなく、学校や家庭の判断に任せるべき	23 名	1.2%
よくわからない	47 名	2.5%
「その他（自由記述）」	24 名	1.3%

※本設問は複数回答形式のため、選択肢の合計は回答者数を上回る。

※この設問には 1,906 名が回答し、延べ 3,284 件の選択肢が選ばれた。

- 本設問では、「性」の知識だけでなく、心や人間関係のことも段階的に学んでほしいとの回答が最多(1,042 名)となり、性に関する教育をより広い人間形成の観点から捉える意識が強いことがうかがえる。
- また、「年齢や発達段階に応じて内容を区切り、体系的に教えてほしい」(796 名)や、「小学校低学年から、年齢に応じて少しずつ教えてほしい」(769 名)といった回答も多く、発達段階を踏まえた段階的な教育の必要性が広く認識されていることが示されている。
- 一方で、「小学校高学年から」や「中学生になってからが適切」と考える回答も一定数存在しており、導入時期に対しては意見の幅があることが分かる。また、「一律に教えるのではなく、学校や家庭の判断に任せるべき」(23 名)、「よくわからない」(47 名)といった回答もあり、教育の進め方に対する多様な価値観が背景にあると推察される。

■設問：性や心に関する教育は、誰が教えると安心できますか？（複数選択可、n=1,906）

選択肢	回答数	%
助産師・看護師・心理士などの専門家（外部講師）	1,365 名	71.6%
学校の先生と外部専門家が連携して行う授業	1,239 名	65.0%
担任や養護教諭など、学校の先生	300 名	15.7%
保護者が家庭で教える	244 名	12.8%
特にこだわりはない	110 名	5.8%
その他（自由記述）	7 名	0.4%

※本設問は複数回答形式のため、選択肢の合計は回答者数を上回る。
※この設問には 1,906 名が回答し、延べ 3,265 件の選択肢が選ばれた。

- 本設問では、「助産師・看護師・心理士などの専門家（外部講師）」が最多となり、専門知識を持つ第三者による指導に安心感を抱いている保護者が多いことがうかがえる。次いで「学校の先生と外部専門家が連携して行う授業」も多く選ばれており、学校と外部の役割を分担・補完しながら行う体制への信頼が高い傾向にある。
- 一方で、「担任や養護教諭など、学校の先生」も一定数の支持を集めており、子どもにとって身近な存在が日常的に関わる意義を評価する声も見られた。また、「保護者が家庭で教える」や「特にこだわりはない」とする回答も一定数存在し、教育の担い手に関する考え方は家庭ごとに多様であることが明らかになった。
- 自由記述には、「担任の先生だと関係性に影響が出そうで心配」「専門家でも中立性がある人にしてほしい」といった配慮を求める声や、「授業内容を保護者にも共有してほしい」「家庭でも話し合えるきっかけにしたい」といった学校と家庭の連携を求める意見が寄せられた。これらの意見からは、誰が教えるかだけでなく、どのように伝え、どのように関係性を築くかといった点への関心の高さも伺える。

自由記述の主な内容

分類カテゴリ	主な記述例
外部専門家の具体的希望 （医師・弁護士などの指定）	・ 学校・専門家の連携による授業をしていただいたうえで、その内容を保護者も把握し、適宜フォローする体制が望ましいと考える（40 代女性） ・ 産婦人科医 尊敬出来る社会的地位のある大人（50 代その他／答えたくない）
担任が行うことへの懸念	・ 勉強を教わる先生からだと照れくささがあってちゃんと聞けないんじゃないかと思ってしまう。性教育を受けたあと、その先生との関わり方が変わってしまわないか気になる…専門家に来てもらい心に残る話をしてもらいたいと思う（50 代女性） ・ 担任は専門外なので避けて欲しい。担任の資質にもよるが『イジリ』（いじめ）などに繋がる心配がある（50 代その他／答えたくない） ・ 先生に負担がかからないように配慮が必要と思う。性について慣れている人、専門家などが話したほうが保護者もゴチャゴチャ言わないと思う（40 代女性）

※本報告書における分類カテゴリは、任意回答の内容を SRHR for JAPAN 事務局にて確認のうえ、主観的判断を避けつつ、内容の傾向に基づいて分類したものである。

■設問：以下は「心と体を守る教育」が目指す姿です。どの程度共感しますか？

「子どもが自分の心と身体を大切にし、他者を尊重しながら生きていく力を育てることを目的としています。」(単一選択、n=1,906)

選択肢	回答数	%
とても共感する	1,392 名	73.0%
ある程度共感する	488 名	25.6%
あまり共感しない	7 名	0.4%
共感できない／内容がよくわからない	19 名	1.0%

※この設問は単一選択形式です。

- 「とても共感する」と回答した人が 1,392 名（約 73.0%）を占め、「ある程度共感する」（488 名，25.6%）を含めると、全体の約 98.6% が肯定的な回答を示した。これは、保護者の多くが、性や心に関する教育において、知識の習得にとどまらず、人格や人間関係の形成といった広い視野での教育の意義を認めていることを反映している。

この設問では「命と心を守る教育」について尋ねています。
しかし、「命と心の違いが分かりにくい」という意見があったため、本報告書では記述を「心と体を守る教育」に統一しています。
ただし、本設問では、設問作成当時の表現である「命と心を守る教育」をそのまま用いています。

■設問：「心と体を守る教育」や学校での性・心・関係性に関する教育について、ご意見やご要望があれば自由にご記入ください。(任意、n=206)

分類カテゴリ	回答数	主な記述例
心のケア・命の尊重 ・教育の本質	94 名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各々の生き立ちとか生活や心のコアな部分に関わることで、専門的な方と連携したり活用したりして進められるといいな、と思います。【中略】虫歯になったら歯医者に行く、と同じくらいに、自身の性について関心の持てる性教育ができたらいいな、と思います。(40 代女性) ・ 性とはまさに生きること、関わることの根幹です。娯楽や消費、刺激などの文脈ではなく、自分が生きること、人と関わること、の文脈において、児童と生徒が考えられるようになってほしい。ただし、それを伝える大人がどれほどいるか。そこに不安を感じます。一方的な知識の伝達ではなく、大人も含め、自分ごととしてとらえ、考える機会を充実させていかなければ、この目的は果たせないのでは、と思います。(50 代女性)
情報リテラシー・家庭との連携・教育の質	60 名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭内でどの程度、子どもたちに話をして理解しているのかをアンケートなどをとり、そこからの問題点をまず絞り出し教育に取り組んでいくべきなのではと思う。あまりにも、唐突的に話されると困るという家庭中にはあるのかなと察する。また、逆に子どもたちにもどの程度を理解しているのかアンケートをとり家庭や学校での子どもたちが理解している相違などを把握することも大切かと思う。(40 代女性) ・ 教育が、ネットや SNS の情報に後れを取るのには避けられない昨今、メディアリテラシーには多くの時間をさいてほしいです【後略】(50 代女性) ・ 性についての知識が乏しいのが、顕著だと思います。自身もそうでしたが、大人になりそれなりに理解をしても実際は全然違う。また、ネット、SNS の情報が正しいと判断してる子が多い(私の子供もそうです)【後略】(40 代男性)
性・心・命に関する教育全般への要望	35 名	<ul style="list-style-type: none"> ・ あまり過激にならない程度に、しかし実例を挙げながら授業をしてほしいです。時代と共に、情報や法律も変化するので、実例を挙げた方が、子供たちがイメージしやすいと思うので(50 代女性) ・ 命を大切にしてほしい(40 代女性) ・ 発達障害について、別枠で教育する時間が毎年学校単位で必要だと思う。担任任せの伝言ではクラスごとに差異が生ずるため(50 代女性)
教育制度や教員への批判・改善提案	10 名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近年、学校内での盗撮や教員の性犯罪などの事件が増えてきたことに憤りを感じます。教育者自身も「心と体を守る教育」が必要ではないかと思います。(50 代女性) ・ (前略)性・心の教育は教員用のマニュアルだけでは、教員それぞれの捉え方の違いで子供達に伝わるのが変わってくるのではないのでしょうか。それにより子供達の中で理解が異なることなので、学校教員の授業は無理だと思います。(これ以上、教育カリキュラムを各教員に押し付けるのも無理があるかと思われます。)専門家を入れ授業を行ことを希望します。これも自論ですが。。。ただ、学校だけに性・心の教育を任さず、各家庭が子供と向き合い、話し合い教えることが本質だと思っております。(40 代女性)
「特になし」などの回答	7 名	

※抜粋は全体傾向を示すものであり、個別の文言は一部調整(読みやすさ優先)した。本報告書における分類カテゴリは、任意回答の内容を SRHR for JAPAN 事務局にて確認のうえ、主観的判断を避けつつ、内容の傾向に基づいて分類したものである。

- 特に多く見られた意見は、「家庭だけでは十分に対応できないため、学校において補完的な教育を実施してほしい」「外部講師や専門家の関与によって、質の高い教育を提供してほしい」といったものであった。これは、専門的かつ信頼性のある教育環境への期待の表れであり、学校教育に対する保護者の信頼と要望の高さを示している。
- また、「教員による性教育に対する不安」を訴える声も一定数存在した。中には、教員による性犯罪の報道を受け、「教員を全面的に信頼することが難しい」とする切実な意見も見受けられた。これに関連して、教員の研修強化や外部専門家との連携、サポート体制の整備を求める声もあり、教育現場における信頼構築が喫緊の課題であることがうかがえる。
- さらに、「年齢や発達段階に応じた段階的な教育」を求める意見も多く、小学校低学年からの早期教育を望む具体的な記述も複数確認された。一方で、「家庭の価値観や宗教観に配慮してほしい」「過激な内容は避け、慎重に扱ってほしい」といった声もあり、家庭ごとの文化的背景や多様性への配慮が求められている。
- 加えて、SNS やインターネット上に氾濫する情報に対する懸念も多く寄せられた。誤った情報に触れる前に、学校で正しい知識や判断力を身につけさせてほしいという要望が多く、情報リテラシー教育の必要性が高まっていることが明らかとなった。

調査結果からみえるもの

今回の調査を通じて、全国の高校生の保護者 1,906 名から、「性・心・人間関係」に関する教育について多様な意見が寄せられました。

回答結果および 206 件の自由記述を分析したところ、以下のような傾向と示唆が明らかになりました。

1. 性教育への高い関心と共感

「心と体を守る教育」の理念に対し、約 99% の保護者が共感を示しており、単なる知識の伝達にとどまらず、心の成長・人間関係・自己肯定感の涵養を含む包括的な教育への期待が極めて高いことが明らかになりました。「とても共感する」「ある程度共感する」を合わせて 1,880 件に達し、多くの保護者が、性教育の広い社会的意義を肯定的に捉えていることがうかがえます。

2. 教育内容への期待と不安の混在

「妊娠・避妊」「性的同意」「SNS トラブル対応」など、実生活に即したテーマへの教育的ニーズが顕著でした。一方で、自由記述および設問 7 の結果からは、「教員の指導力」「過激な内容への懸念」「家庭の価値観との違い」などに対する慎重な意見や不安の声も一定数存在しています。これは、期待と不安が同居する性質を持つ領域であることを示しています。

3. 外部専門家への信頼とニーズ

「学校の先生と外部専門家が連携して行う授業」(1,239 件)、「専門家による授業」(1,365 件)という結果からも分かるように、助産師・看護師・心理士・医師など専門家による関与への支持が非常に高く、学校単独ではカバーしにくいテーマへの補完的な関与が求められていることが明らかになりました。自由記述では「担任への気まずさ」や「教員の専門性不足」への懸念も指摘されており、教育の担い手に多様性を持たせる必要性が示唆されます。

4. 保護者との情報共有の重要性

保護者の不安の背景には、「教育内容が見えないこと」への不安感が大きく影響していると考えられます。「授業内容の事前説明」(1,178 件)、「教材の事前確認」(1,108 件)、「保護者説明会の実施」(1,027 件)などの回答からも、保護者と学校の情報共有と信頼構築の必要性が強く示されました。多くの保護者が、受け身ではなく、教育に参画したいという姿勢を持っていることも自由記述から読み取れます。

5. 発達段階に応じた教育の必要性

年齢や発達段階に応じた体系的・段階的なカリキュラムが求められており、「思春期を迎える前に基礎を学んでおくべき」といった意見も多く寄せられました。

6. 発達特性・個別ニーズへの配慮の必要性

自由記述では、「発達障害については毎年学校単位で別枠の教育時間が必要」といった意見も寄せられ、発達特性に応じた継続的で公平な学習機会の確保が求められていることが示されました。

7. 多様な価値観・文化的背景への配慮の必要性

家庭の文化的・宗教的背景や価値観への配慮も重要で、「内容が家庭の考えと異なるのではないか」といった慎重な意見も一定数見られました。